

2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

2026年4月～2026年6月（第198期第1四半期連結累計期間）

2026年 7月 28日
日本車輛製造株式会社

目次

1. 2027年3月期第1四半期累計連結決算の概要
 - (1) 業績の要約
 - (2) セグメント別業績
2. 2027年3月期 連結通期業績見通し

業績の概要（2027年3月期 第1四半期累計期間）

売上：建設機械事業、エンジニアリング事業の増収により、全体として増収。

利益：主に鉄道車両事業の増益により、全体として増益。
品質向上の取り組みや低コスト化・業務の効率化の推進等も増益に寄与。

（単位：億円）

	前期	当期	増減	前期比
売上高	232	236	+ 4	+ 1.8%
営業利益	15	29	+ 13	+ 86.0%
経常利益	17	31	+ 13	+ 78.6%
（売上高経常利益率）	（7.6%）	（13.3%）	（+ 5.7%）	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	13	26	+ 13	+ 101.2%

セグメント別業績（2027年3月期 第1四半期累計期間）

（単位：億円）

	売上高			営業損益		
	前期	当期	増減	前期	当期	増減
鉄道車両	134	117	△17	9	18	+9
建設機械	39	55	+16	7	9	+2
輸送用機器・鉄構	50	50	△0	5	5	△0
エンジニアリング	7	12	+4	△0	+0	+1
その他/調整額	0	0	+0	△6	△4	+1
合計	232	236	+4	15	29	+13

※ 「調整額」は、セグメントに帰属しない一般管理費、セグメント間取引消去などを含んでいる

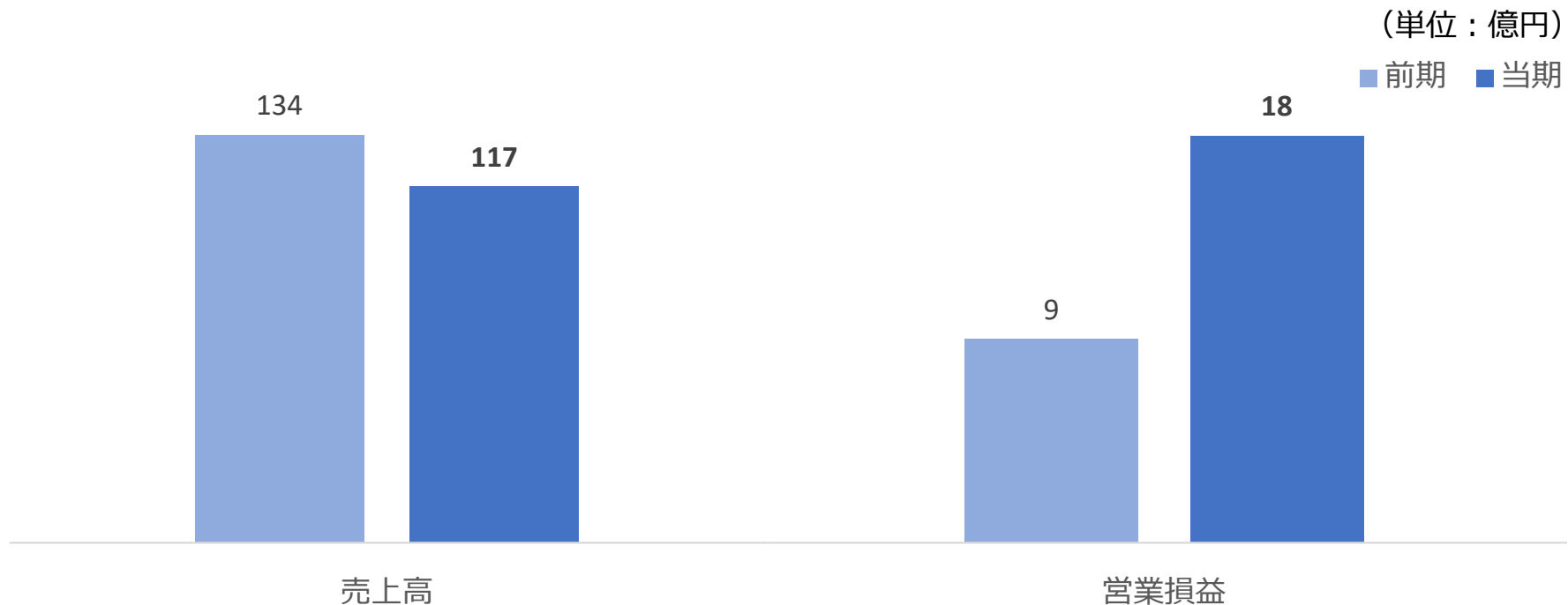
鉄道車両事業

＜売上高＞

- J R東海向けN 7 0 0 S新幹線電車や、小田急電鉄向け電車、京成電鉄向け電車などの売上があり、J R東海向け車両の売上が減少したことなどにより減収。

＜営業損益＞

- 減収の一方で、売上の製品構成の変化により利益率が向上し増益。



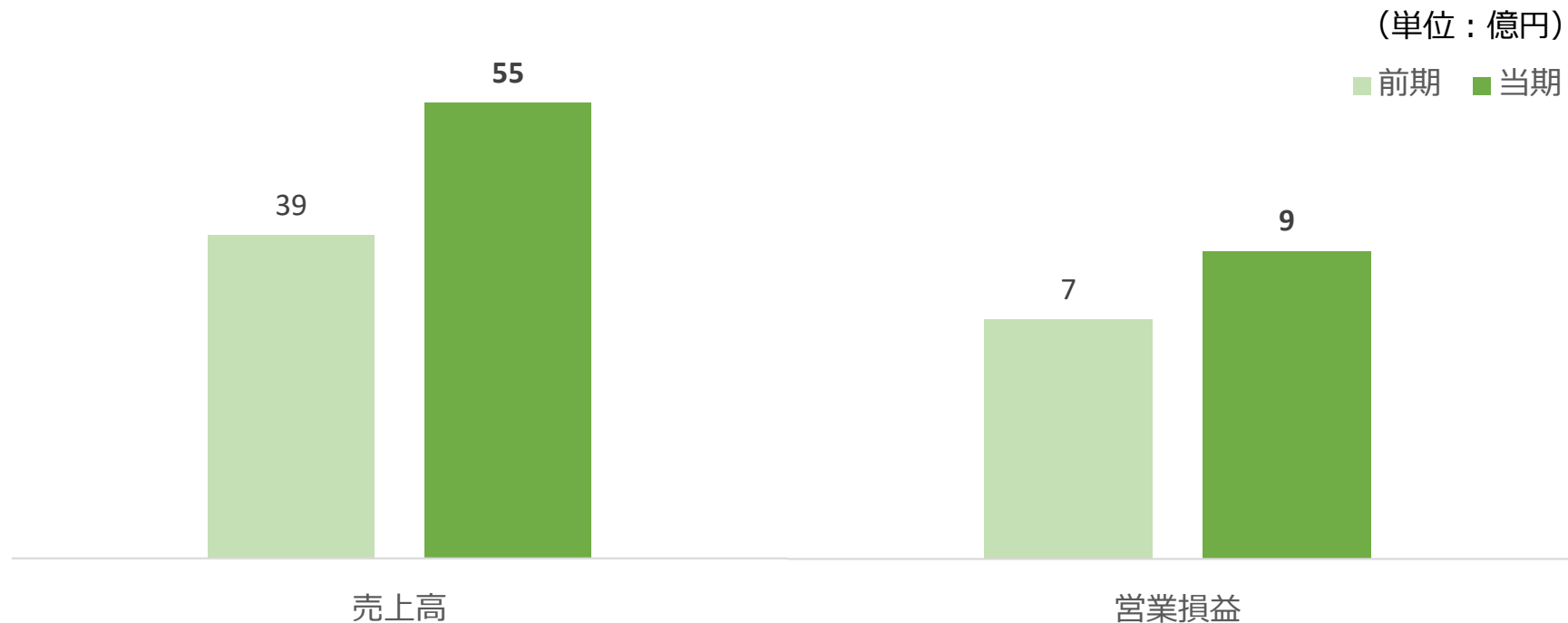
建設機械事業

<売上高>

- 大型杭打機、小型杭打機、障害撤去機、全回転チュービング装置などの売上があり、大型杭打機、障害撤去機の売上が増加したことなどにより増収。

<営業損益>

- 増収により増益。



輸送用機器・鉄構事業

<売上高>

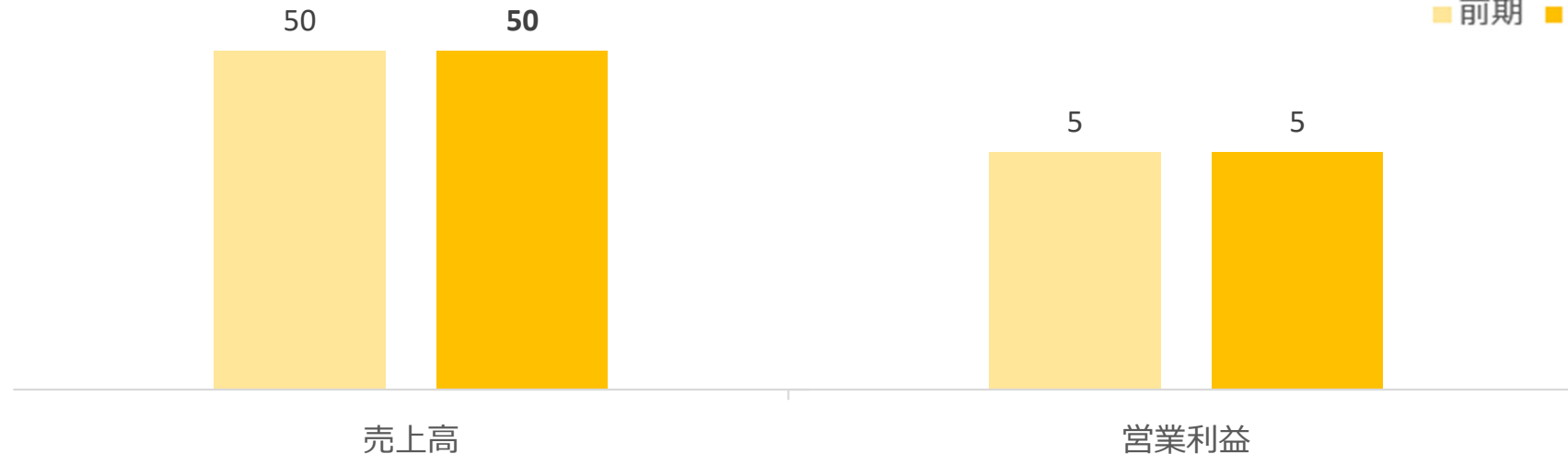
- 輸送用機器は、民生用バルクローリ、大型自走式キャリヤ、貨車などの売上有り、大型自走式キャリヤなどの売上が増加。
- 鉄構は、西知多道路 青海 I C・大田 I C、水分橋などの売上有り、道路橋の売上が減少。
- 事業全体では前年並み。

<営業損益>

- 輸送用機器の増益の一方で、鉄構の減益により事業全体では前年並み。

(単位：億円)

■ 前期 ■ 当期



エンジニアリング事業

＜売上高＞

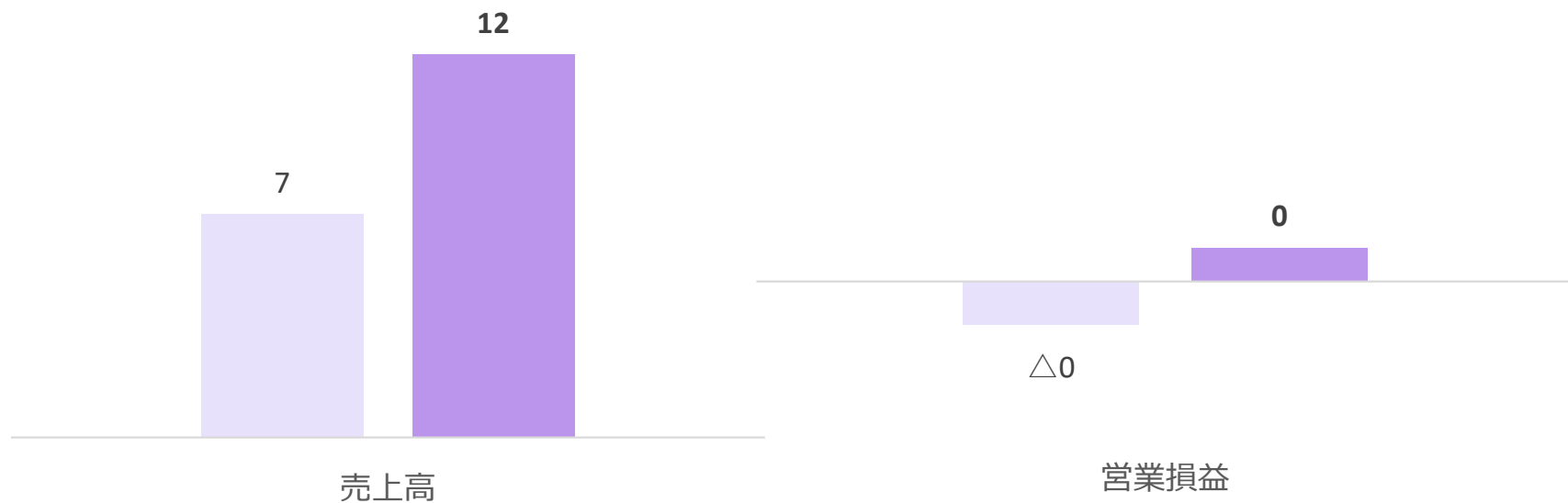
- 鉄道事業者向け機械設備のほか、家庭紙メーカー向け製造設備、各地のJ A向け営農プラントなどの売上があり、主に営農プラントの売上が増加したことなどにより増収。

＜営業損益＞

- 増収による増益。

(単位：億円)

■ 前期 ■ 当期



2027年3月期 連結通期業績見通し

2026年4月24日の決算発表時に公表いたしました
通期の連結業績予想に変更はありません。

(単位：億円)

	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (業績見通し)	増減	増減率
売上高	999	1,070	+70	+7.0%
営業利益	116	88	▲28	▲24.2%
経常利益	119	93	▲26	▲22.4%
(売上高経常利益率)	(12.0%)	(8.7%)	(▲3.3%)	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	116	75	▲41	▲35.7%

日本車両

※本資料の業績見通しに記載されている将来の数値は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。